

【美人林】

美人林の不気味なほどまっすぐで整然と並んだ木々が初めて生えたのは 1910 年代初め、土地の所有者が東京へ引っ越すための資金を必要としていた時のことである。所有者はブナの木をすべて伐採して木炭として販売することを決め、その後、何もなくなった植林地を地元の農民に託して引っ越した。そして 更地になった後、残っていた何千ものブナの若木が太陽に向かって真っすぐ伸びることができたのである。他の木よりもゆがみやすいブナは、当時は良質の木材とはみなされていなかった。新しい地主はより儲かる杉を植えるためにそのブナを伐採することを考えたが、ブナの木の美しさに魅了され、そのまま成長させることにした。そして、背が高くエレガントなシルエットの木々から着想を得て、「美人の森」を意味する美人林と名付けられたのである。

ブナの木は 5～7 年に一度開花し、秋には種を落とす。通常の条件下では、林床は林冠によってブロックされ、種は夏の間に光が不足し枯れてしまう。土地が完全に更地になったことで、日光が種に届くようになり、種はまっすぐ太陽に向かって成長していった。

ブナは高山植物の一種と考えられており、通常は 1,000 メートル以上の高度で成長する。海拔わずか 300 メートルのこのような場所で成長することはほとんどないが、厳しい冬と大雪によって他の競合種の成長が抑えられることで、ブナが繁殖することができる。斜面に生えるブナの木は、この雪の重さによって不均等に圧迫され、奇妙な形に曲がってしまう。